

市 研 特別活動 速報

【低学年部会】

発行日 平成28年11月14日

横浜市立小学校特別活動研究会

会 長 高橋 宏明

研究テーマ 明るい未来を切り拓く子どもを育てる学級活動の在り方
～集団活動を通して、子どもの自尊感情を高めるには～

活 動 名 「たすけあってなかよくなるう！にこにこうんどう会大きくせん」 学級活動(1)

○活動のねらい

「たすけあってなかよくなるう！にこにこうんどう会大きくせん」の活動を通して、友達の頑張りに気付き、助け合って活動しようとする態度を育てる。

○テーマにせまるための具体的な手立て

- ・活動後すぐに自分や友達の頑張りを見付ける「がんばりじまんタイム」を設けることで、活動の中の自分や友達の頑張る姿を具体的に見付けられるようにする。
- ・各グループが考えたことを学級全員で実践することで、活動内容を共通理解して進めたり、共通の問題に気付いたりすることができるようにする。

○研究討議・講評から

- ・活動していく中、子どもたちがイメージできないことや不安に思っていることがあったときに、全体で共有する場や時間を設けることで、子どもたちは安心して活動に臨める。また、自分の思いを受け止めてもらえたことを感じることもできる。助け合うということを理解するきっかけになっていた。
- ・低学年は自分の行動をすぐに忘れてしまいやすい。活動の度に、こまめに「がんばりじまんタイム」を設け、掲示して見やすくしたことで、自分の頑張りに気付くことができるようになったと思う。
- ・自分や友達のよさを見付けることは難しいと思うが、教師が子どものつぶやきや姿をとらえて価値付けることで、子どもたちは自分や友達を見る視点が分かり、よさを見付けられるようになったと思う。
- ・子どもたちは、自分のよさに何となく気付いても自信までにはつながらない。しかし、友達に伝えてもらうことで、自分のよさが分かり、自信をもつことができる。活動して自分のよさに気付いたその時々、友達に教えてもらうことが効果的であるため、活動の度に自分や友達のよさを伝え合うことは大切である。
- ・本活動では一人ひとりの自尊感情が、友達とのかかわりの中で高まっていく様子が見られた。他者評価される場を設けることによって、自分のよさへの気付きが生まれるきっかけとなっていた。
- ・振り返りは、めあてに対してどのように活動したかを振り返るものである。抽象的なめあてでは、自分へも、友達へも、活動したことを評価するのが難しい。具体的なめあてをもつことが必要である。また、個人では難しい振り返りも少人数グループで行い、友達に自分のよさに気付いてもらうことで、自分への評価を積み重ねることができる。
- ・振り返りの方法は、振り返りの視点を示すために項目立てて書くことから始めて、その後自由記述にするなど、学級の実態や発達段階に応じて振り返りの方法を選ぶ必要がある。
- ・子どもたちは自分の思っていないよさを評価されるより、自分の思っていたよさと人に気付いてもらったよさが一致する方が自信につながる。友達のよさに気付く視点や支援が必要である。教師が子どもの姿を価値付けることで、子どもは友達を見る視点に気付くことができるようになる。
- ・教師が自尊感情の高まりを長期間で段階的に考え、次の段階に向かっていくように意識しながら支援することも大切である。